

標津町まちづくり計画

標津町ふるさと新生プラン 「ステップⅡ」

平成23年度～平成27年度

海・山・川・大平原がおりなす
感動の大地・標津町

協働が咲かせる小さくても
キラリと光る定住地域

町民参加でつくりあげた 「まちづくり計画」

「ふるさと新生プラン・ステップⅡ」の策定にあたっては、町民の皆様の声と意見・提言を集約して、計画づくりを進めました。この中で、延べ945件の貴重なご意見・ご提言をいただきました。

町民参画の軌跡

- ▶ H22.1～H22.3……地域活力町民会議(3回・延べ74人)
- ▶ H22.3……まちづくり町民アンケート調査(480人)
※1,200人対象・回収率40%
- ▶ H22.3……まちづくり団体カルテ／意見聴取(72団体)
※103団体対象・回収率69.9%
- ▶ H22.4～H23.2……地域活力拡大町民会議(5回・延べ307人)
- ▶ H22.5～H22.7……各専門部会会議
(5つの専門部会で合わせて17回・延べ213人)
- ▶ H22.6……まちづくりシンポジウム(250人)
- ▶ H22.10～H23.2…議会との意見交換(4回)



平成22年6月開催「まちづくりシンポジウム」の様子

計画策定のフローチャート

地域活力推進拡大町民会議(65)50人委員会



活力ある産業のまちづくり部会(23)



環境と暮らし対策部会(34)



人と文化が育つま



まちづくりシンポジウム(14)

まちづくり町民アンケート(542)

団体カルテ(126)

主要団体との意見交換(53)

議員との意見交換(31)



※地域活力推進拡大町民会議やまちづくり町民アンケートなどから延べ945件の意見・提案をもらいました。

※意見・提案を4つの戦略プランに分類し、合計78件の意見・提案に集約しました。

※その意見・提案を土台にして、短期的・集中的に実施する施策を153事業にまとめました。

課題・直面する危機

①人口問題

- 各町内会で高齢化が進んでいる。
- 高齢者や障がい者が安心安全に暮らせるまちづくり。
- 世帯向けの住宅がない。
- 児童、高齢者、ベビーカーなど安全に通行できる歩道の除雪。
- 町民同士が助け合い、町内会と行政が助け合う。町内会の活性化を。
- 高齢者等の避難体制を整備すべき。など

③環境問題

- 産業のネットワーク会議を開催し、それぞれの課題解決のため、連携を図り、情報交換。
- ゴミに対する住民意識改革。
- 住宅の前の歩道や周辺の草が伸びていても放置している人が多い。
- 道路の環境美化。など

まちづくりのシンボル・テーマ
実現のための基本目標



※()は、出された意見・提案数

ちづくり部会(27)



快適で住みよいまちづくり部会(8)



町民と協働のまちづくり部会(22)



②産業問題

- 漁業、酪農、商業は、課題や問題点など意見交換し連携を図るべき。
- 標津製品の売り込み戦略とPR強化が必要。
(標津町自体のブランド化)
- 交流人口の増加。(町の環境資源を生かした観光振興)
- 町内での買い物の不便さがある。
- 「道の駅」の整備検討。など

④人づくり

- 中高生によるまちづくり交流会の開催。
- 全町の全域でラジオ体操を。
- 人的資源を最大限活用。
- 赴任したばかりの
教員用のふるさと学習の場の設定を。など

標津町地域活力推進拡大町民会議のメンバー

区分	団体名	役職名	構成員
産業経済団体 (16団体)	標津町農業協同組合	参事	佐藤 強
	標津町農業協同組合青年部	部長	渡部 英徳
	標津漁業協同組合	参事	成田 映美
	標津漁業協同組合青年部	部長	鈴木 信幸
	標津さけ定置漁業部会	部会長	中村 憲二
	標津漁船漁業部会	部会長	平井 敏雄
	標津町商工会	会長	藤本 靖
		事務局長	北 晴男
	標津町商工会青年部	部長	遠藤 直人
	標津町観光協会	会長	千葉 元
	標津町建設業協会	副会長	篠田 静男
	しべつふるさと企画	事務局長	吉田 哲也
	標津町旅館組合	組合長	安田 初子
	標津町料飲店組合	組合長	石橋 昌幸
	大地みらい信用金庫標津支店	支店長	石崎 義人
	標津郵便局(町内郵便局代表)	局長	山口 靖浩
標津町水産加工振興協会	会長	神内 正昭	
コミュニティ・ 福祉団体 (7団体)	標津町町内会連絡協議会	会長	藤本 謙二
		副会長	大沼 健一
		副会長	土井 裕
		事務局長	三田 俊勝
	標津町社会福祉協議会	副会長	滝本 新一
	標津町老人クラブ連合会	会長	三戸 俊雄
	道台北海道標津地区連合会	会長	大垣 勇
標津町長生児童委員会協議会	会長	高桑 吉宣	
役場OB会		山形 正喜	
	所長	瀧内 孝司	
教育団体 (7団体)	標津町小中学校校長会	事務局長	外山 浩司
	標津町小中学校教頭会	会長	永谷 隆夫
	標津高等学校	校長	宮崎 真彰
	標津高等学校教育振興協会	会長	荒谷 文明
	標津町PTA連合会	会長	梅野 雅一
	標津町体育協会	会長	竹野 武美
	標津町文化協会	副会長	田口 徳子
女性団体 (4団体)	標津町女性団体連絡協議会	会長	小笠原 明美
	標津町農業協同組合女性部	部長	小堀 友子
	標津漁業協同組合女性部	部長	森岡 繁子
	標津町商工会女性部	部長	神内 朝子
ボランティア団体 (4団体)	標津町観光体験ガイド協議会	会長	川畑 喜美子
	標津ふるさと体験塾	塾長	武山 栄道
	ブルースクローズ	代表	山本 憲次朗
	標津町手をつなぐ親の会	会長	渡邊 宇良子
官公庁等 (3団体)	根釧東部森林管理署	署長	中澤 文彦
	陸上自衛隊標津分屯地	司令	中村 大瑛
	標津町	町長	金澤 瑛
公募・個人 (9人)			千葉 実
			更谷 準司
			小野瀬 禮子
			長谷川 薫
			山形 有里
			伊藤 一枝
			菊池 勝紀
			出口 亮
			南 憲治

(41団体9個人)※敬称略

戦略プラン

の 実現に向けて

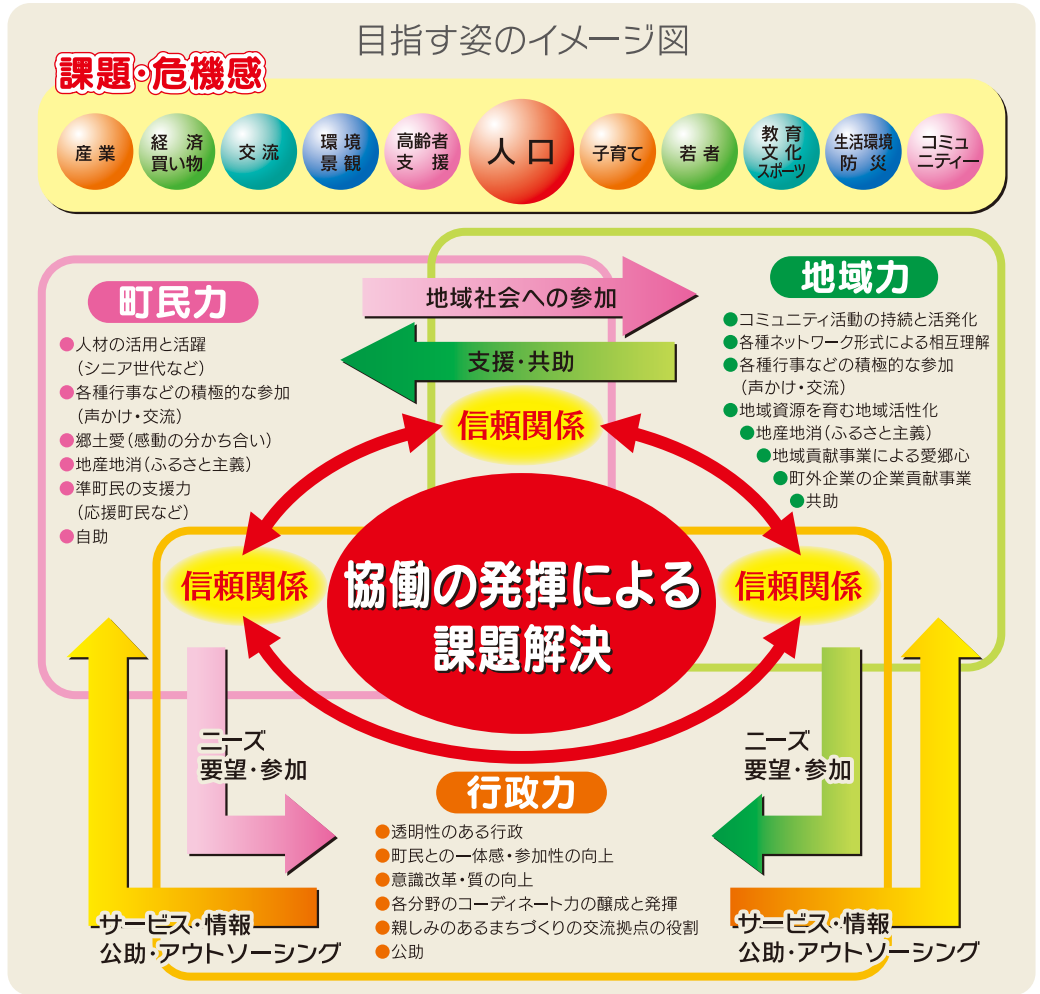
「海・山・川・大平原がおりなす感動の大地・標津町」

シンボルテーマ／めざすべき町の姿

「町民力」、「地域力」、「行政力」の信頼のトライアングルによる

「連携と支援」、「真の協働の発揮」により、

まちづくりの参加性を高めて、町が抱える課題・危機感に果敢に挑戦してまいります。



まちづくりのシンボルテーマ

海・山・川・大平原がおりなす 感動の大地・標津町

海・山・川・大平原がおりなす

- ・ 素晴らしい自然環境と、人々のいきいきとした暮らしびりを描き出す躍動的する姿。
- ・ 人・自然・産業のどれもが光り輝く元気なまち。

感動の大地・標津町

- ・ 夢と希望に満ちた、この素晴らしい大地で、未来に向け飛翔するまち。
- ・ 小さなまちでも、個性と魅力あふれるオンリーワンのまちを目指す。
- ・ 人々のより所になる、安らぎのある心の故郷であり続けたい。

【標津町の特性】

- 海・山・川・大平原の奏でる美しい自然
- 美味しい空気・水・味覚資源
- 酪農と水産業の基幹産業
- 恵まれた地域資源
- 地域資源を活用したエコ・ツーリズム
- 盛んな各種イベント
- 精神的に気持ちのよい住みやすい環境
- 思いやりとふれあいの心
- 郷土愛が強い
- 歴史あるまち

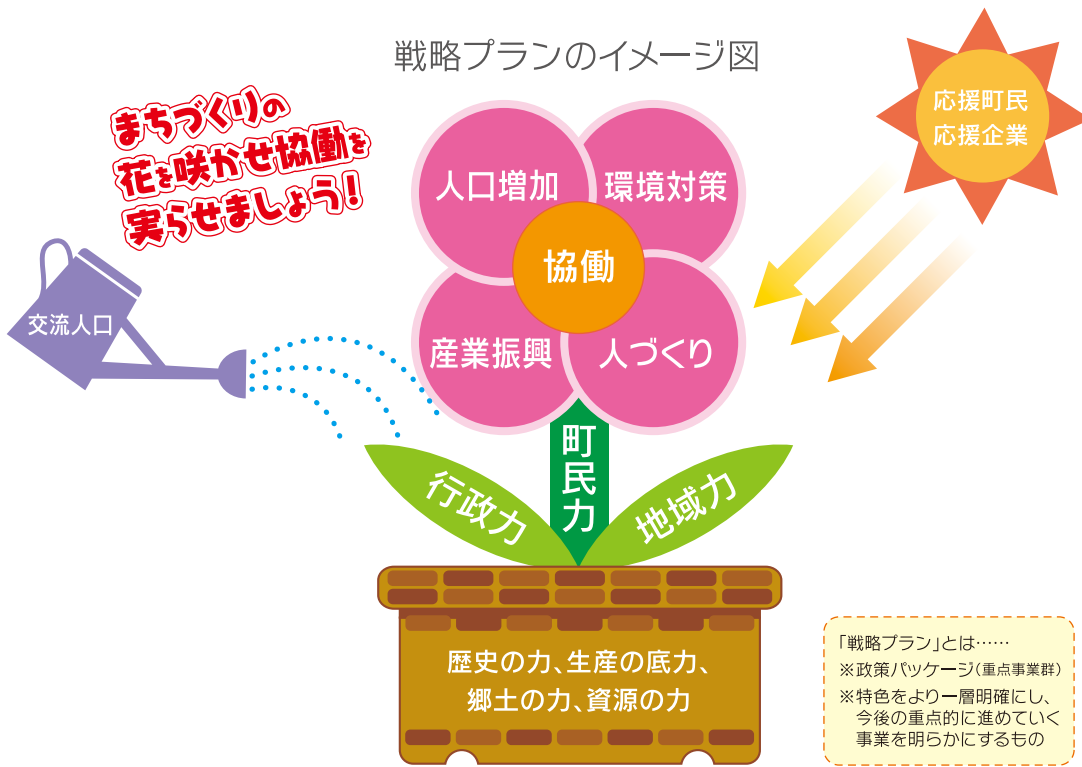
【キーワード(導き)】

- 海・山・川・大平原の4拍子揃った大自然
- 酪農と水産業
- 人と人との交流・ふれあい・思いやり
- 郷土愛

【テーマの心】

- 人・自然・産業が輝きに満ちたまち
- 活力のあるまち
- 心から故郷を誇り、愛せる理想のまち
- 個性と魅力のあるオンリーワンのまち
- 人にやさしく助け合うまち

「ふるさと新生プラン・ステップII」を展開していくため、町民の皆様にもわかりやすく、また、スピード感が求められていることから、より実効性を高めるため、4つの戦略プランをもって、重点的に施策を実施します。(153事業)



「協働が咲かせる、小さくてもキラリと光る定住地域」
をめぐって……

行動テーマ/スローガン

4つの戦略プランと重点事業群

①人口増加プラン (49事業)

- ◆ 魅力ある定住づくり
- ◆ 親が安心して、子育てできる環境づくり
- ◆ 若者の雇用と定住、高齢者の生きがいづくりと支えあい
- ◆ 心をつなぐパートナーシップのふるさとづくり
- ◆ 安全・安心に暮らせるまちづくり

②産業振興プラン (40事業)

- ◆ 安定した基幹産業の推進
- ◆ 地域資源を活かした高付加価値化対策と販売強化による地域ブランドの購買力強化
- ◆ 買い物環境の創造による商業力推進
- ◆ 交流拠点として更なる飛躍

③環境対策プラン (19事業)

- ◆ 自然環境の保全と創造の推進
- ◆ 住みよい生活環境づくり
- ◆ 地球温暖化防止に向けた取り組み

④人づくりプラン (45事業)

- ◆ 特色ある学校教育の実践
- ◆ ふるさとを担うリーダーづくりとふるさとに誇りと愛着を持てる環境づくり
- ◆ 標津高等学校魅力化プロジェクト
- ◆ 知・徳・体のフィールドの有効活用と魅力化づくり

人口増加プラン〈49事業〉

魅力ある定住地づくりと人口増加対策の強化

町民の声

- ・人口減少に歯止めをかけるべき
- ・出生率の向上と特色ある子育て支援策を
- ・若者向けの住宅を建設し、近隣町に住み人を呼び込む(移住)新築住宅建設への助成
- ・元気な高齢者が虚弱な高齢者を支えるシステムづくりを
- ・障がい者が将来にわたって安心して暮らせるケアホームやグループホーム施設の確保を など

魅力ある定住づくり (10事業)

- ★若者(移住者)向け住宅整備の実施
- ★きめ細やかな除雪の対応(歩道を含めた排雪処理など)
- ★町内会等の呼び掛けによるイベント等への積極的参加(感動の分かち合い、一体感が生まれる)
- ★コーディネーター養成による人材活用(養成講座等の開催)
- ☆移住者の増加対策(近隣町在住通勤者への家賃補助など)
- ◇全国に向けた移住推進の強化(美郷団地のさらなるPR強化、お試し暮らし体験推進、空き家バンクの登録推進)
- ◇定住促進住宅空き家改修の実施(廃校の教員住宅など)
- ◇下水道未整備地区の浄化槽方式等の整備
- ◇魅力ある景観づくりの推進(「彩りのあるまちづくり事業」の継続実施、廃屋の調査リスト作成など)

親が安心して、子育てできる環境づくり (12事業)

- ★「子ども室(仮称)」の創設
- ★幼保連携施設の基本構想策定(標津市街地区)
- ☆中学生以下の医療費無料化
- ☆第3子出産祝い金支給
- ☆赤ちゃんのおむつゴミ袋支援
- ☆小中学校の入学祝い金支給
- ☆「子育て応援団」(仮称)の活動支援(ボランティアによる地域での子育て支援)
- ☆子育て支援のまち宣言検討(各種事業の充実)
- ◇安い保育料金の維持
- ◇相談窓口の充実(出産・育児・教育・経済的等不安の解消、相談窓口のPR広報)
- ◇子育て支援センターの充実(親同士で学び・支え合い、「子育てが楽しい」という環境づくり。スタッフの体制整備など)
- ◇子育て支援事業の広報(ホームページ充実、「子育て支援情報」ガイドブック作成・新生児の親へ配布など)

若者の雇用と定住、高齢者の生きがいづくりと支え合い (11事業)

- ★NPOやLLP等住民主体の組織設立による強化(雇用の場確保)
- ★障がい者の相談体制充実
- ★キラリ工房の安定運営(NPO法人化と新たな事業所設置)
- ☆障がい者のグループホーム・ケアホーム整備検討
- ☆高齢者の活躍の場づくりによる生きがいづくり(人材のリストアップなど)
- ☆高齢者介護施設の充実(高齢者下宿の整備、はまなす苑増床の検討)
- ◇若者の雇用の場確保のための起業創出の推進(既存産業の育成・地域資源活用した付加価値づくり・企業誘致の推進)
- ◇結婚活動支援(出合いの場の提供)
- ◇高齢者いきいきサロンの拡充(利用施設・指導員の確保検討)
- ◇障がい者の移動支援
- ◇認知症サポーターの養成、家族の交流

心をつなぐパートナーシップのふるさとづくり (8事業)

- ★カーボン・オフセットの推進(企業の社会的貢献(CSR)による、森林整備の支援)
- ★「こころ」の住民登録制度の創出
- ★町内会館の利用活性化のための備品整備(座椅子整備)
- ◇郷土会との連携強化(東京標津会・札幌標津会)
- ◇企業や大学などの研究・研修機関の誘致(本町の地域資源を活かしたフィールドの有効活用など)
- ◇観光等事業による、さらなる交流人口の増加推進
- ◇ふるさと応援町民との関わり強化
- ◇企業誘致の積極的推進

安全・安心に暮らせるまちづくり (8事業)

- ★災害情報等を素早く伝え住民の生命や財産を守るための防災行政無線の整備強化(アナログ→デジタル化へ更新)
- ◇地域防災活動の促進(地域での防災訓練の実施)
- ◇自主防犯ボランティア等の活動の助長(防犯・交通安全などに係るボランティア活動への支援)
- ◇安心安全に配慮した防犯灯の整備(新設・移設など)
- ◇町民の防災意識の高揚(総合防災訓練の実施など)
- ◇地域ネットワークによる高齢者等の避難体制の充実(災害時要援護者のリストアップとマップ作成、協力者の要請、町内会等による普段の見守り・声掛け実施の啓発)
- ◇医療の充実(標津病院の医療機器整備など)
- ◇生活習慣病対策として、特定検診受診後のハイリスク者への個別支援の充実(健診データ分析支援ソフト購入)

～凡例～

- ★新規事業 (実施予定)
- ☆新規事業 (調査・検討)
- ◇継続・拡充事業 (実施予定)

産業振興プラン〈40事業〉

町民の声

- ・秋サケが不漁で商業、水産加工業など地域経済にも影響している
- ・標津町は第1次産業がしっかりしていないと
- ・標津産品の売り込み戦略とPR強化が必要
- ・購買力の流出を防ぎたい(域内循環)
- ・冠婚葬祭の他町の流出阻止
- ・標津産製品のネーミング統一(知床しべつ)
- ・町内観光施設の案内強化 など

安定した基幹産業の推進 (15事業)

- ★農産物(牛乳、畜肉、有機野菜)の地産地消の推進
(ふるさと給食での活用、イベントでの販売や地元料飲店での販売促進など)
- ★基幹産業の国際化に伴う対策や課題検証(TPP、EPAなど)
- ☆漁船安全操業対策事業(レーダー機器の更新)
- ☆産業経済団体のネットワークづくり(産業経済代表懇話会・産業経済者による交流会議の開催)
- ◇良質な生乳生産への取り組み(土・草づくり、乳牛の健康管理など)
- ◇酪農ヘルパーの充実、支援(酪農ヘルパー育成促進事業、ヘルパー事業所誘致など)
- ◇農業担い手支援(農業担い手総合支援協議会補助)
- ◇農業基盤整備の推進(草地、畜舎等: 公社営畜産担い手育成総合整備事業、道営草地整備改良事業)
- ◇農業後継者対策(農業後継者対策推進協議会補助)
- ◇鮭資源の回復対策(河川環境の保全、藻場造成試験礁の設置、サケマスセンター等による資源対策調査など)
- ◇ホタテ漁業の生産増大対策(地場産稚貝増産のための中 間育成施設の更新等)
- ◇マツカワ、ホヤなどの水産資源増殖対策の強化(栽培漁業推進連絡協議会による増殖事業支援)
- ◇水産物の地産地消の推進
(加工センターでの製造販売、ふるさと給食での活用、イベントでの販売や地元料飲店での販売促進など)
- ◇産業人材の育成・確保(農林水産普及所等による研修会、学習会等の開催調整)
- ◇産業環境に関する3者会議の運営推進(ホタテ焼成貝殻カゴの設置・水質調査・河川パトロール等実施)

地域資源を活かした高付加価値化対策と販売強化による地域ブランドの購買力強化 (8事業)

- ★「知床しべつ」のネーミングの普及対策(特産品への知床しべつシール貼付など)
- ☆産業経済団体のネットワークづくり(産業経済代表懇話会・産業経済者による交流会議の開催)(再掲)
- ☆多様なチャンネルを活用した大消費地販売力の強化(標津ショップの開設など)
- ☆大消費地までの輸送コストの格差解消対策(高付加価値化による輸送コストの低減に向けた対策)
- ☆IT技術を活用した標津町や標津産品の普及促進(QRコードを利用した取り組み研究)
- ☆地域原料を生かした「食産業」の強化(試食会の開催、イベントでの販売、地元料飲店などでの活用促進)
- ◇地域ハサップのブランド力、販売力の強化(ハサップのサブタイトル付けや消費流通対策など)
- ◇高付加価値化製品の開発(活〆魚普及促進協議会による活〆事業の促進支援など)

買い物環境の創造による商業力推進 (6事業)

- ★冠婚葬祭の地元実施
(香典返しなど地場産品の積極的活用など地域内経済循環の推進を図るための意識醸成活動と実践)
- ☆産業経済団体のネットワークづくり(産業経済代表懇話会・産業経済者による交流会議の開催)(再掲)
- ☆集合店舗、空き店舗サロンなど、多様な地元買い物誘導対策の研究(商工会による検討会や意見交換会の開催など)
- ◇地産地消による、地元での消費、利用、販売、購買運動実践(積極的な買い物利用、贈答品等の地元活用)
- ◇移動販売車(カウモン号)の運行充実による集落地域や高齢者への買い物支援策の推進(定着化に向けた支援)
- ◇地域原料を生かした「食産業」の強化(再掲)(地場食材を活用したオリジナル弁当創作など食の開発実践活動)

魅力ある交流拠点への飛躍 (11事業)

- ★サーモンパークの魅力化対策(経営の分析による改善対策や魅力化づくりなど戦略的な取り組み)
- ★IT活用など、観光情報の発信強化(知床観光圏等との連携によるHPづくり、効果的な観光情報の発信方法研究)
- ★「知床しべつ」の知名度アップと、知床観光圏による広域観光強化(知床観光圏案内サービスの充実や組織連携)
- ☆産業経済団体のネットワークづくり(産業経済代表懇話会・産業経済者による交流会議の開催)(再掲)
- ☆交流人口誘導策として「道の駅」研究
- ☆町内観光産業のネットワーク化による、観光推進と経営体制の強化(民間組織の自立と強化)
- ◇地域を挙げた着地型観光(標津へおいてよ型観光)の取り組み強化(魅力ある体験商品の開発など)
- ◇観光インストラクター人材発掘・養成(ガイド組織への支援)
- ◇観光施設の有機的な連携(体験活動の連携や観光施設スタンプラリーなどの検討)
- ◇海の公園、ポー川史跡自然公園、サーモンパークとの連携による魅力化推進(各施設での体験プログラムの創出)
- ◇水・キラリの実践を通じた産業・経済団体の一層の連携強化(魅力ある祭り開催に向けた連携強化)

国内外の競争に立ち向かう
元気あふれる産業経済基盤の創造

環境対策プラン〈49事業〉

地の利を活かして人と自然がともに生きる
 快適環境の推進

町民の声

- ・海、山、川のすばらしい大自然をそのままの姿で保全
- ・環境保全なくして基幹産業の振興は成り立たない
- ・ゴミ袋の規格の増加
- ・資源ゴミの収集回数の増加
- ・町内一斉清掃の推進
- ・エネルギーへの助成
- ・エネルギーへの助成
- ・廃屋等を撤去するなどの環境への配慮 など

自然環境の保全と創造の推進 (4事業)

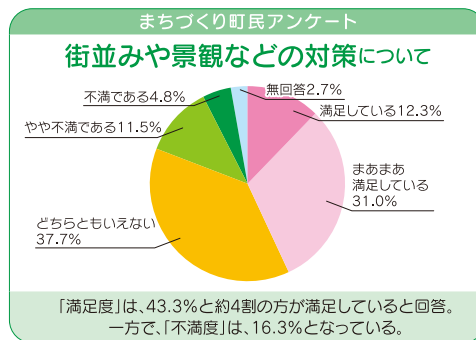
- ★河川の環境保全に向けた関係団体による協力体制構築
 (中標津町との広域的な連携協議組織・3者会議の継続など)
- ☆全町民が共有する、高い環境思想の確立に向けた行動を目指す
 (産業経済団体のネットワークづくり(産業経済代表懇話会・産業経済者による交流会議の開催など)【再掲】)
- ◇保全の森づくりの推進(河畔林、耕地防風林の整備、カーボン・オフセットの取り組み
 ※企業の社会的貢献(CSR)による森林整備の支援)【再掲】
- ◇野生動物の森づくりの推進
 (鳥獣との共生を図り維持するための体制づくり※自然保護専門員、NPOとの連携)

住みよい生活環境づくり (12事業)

- ★ゴミ袋の新たな規格の増設
- ★資源ゴミの収集回数増加
- ☆安定的なし尿等の処理対策(し尿処理施設の更新など)
- ◇ゴミ拾いボランティア活動などの推進
- ◇「ねむろ自然の番人宣言」認定団体による不法投棄監視の強化
- ◇廃棄物処理に係る適正な町民負担の検討
- ◇町内一斉清掃の一層の推進
- ◇ゴミの適正処理に係る周知徹底
- ◇彩りのあるまちづくりの推進(花いっぱい運動など)
- ◇3R(減量化・再使用・再生利用)の推進によるゴミの削減
- ◇「日本で最も美しい村」の持続的取り組みと、加盟企業、自治体との連携
- ◇関係機関等との連携による有害鳥獣対策の充実

地球温暖化防止に向けた取り組み (3事業)

- ◇地熱開発など、ネイチャーグリッド構想の実現に向けた、新エネルギーの導入推進計画の策定と実践を進める
- ◇地球温暖化防止実行計画の着実な推進(公共施設や設備更新時の省エネタイプ設備導入の推進など)
- ◇豊かな自然・資源を活かした環境と密接に関連した、町民祭り水キラリ、地域ハサップ、エコツーリズムなどの、環境まちづくり事業を積極的に推進して、町の環境価値を高める



春の町内一斉清掃



標津町植樹祭

- ～ 凡 例 ～
- ★新規事業 (実施予定)
 - ☆新規事業 (調査・検討)
 - ◇継続・拡充事業 (実施予定)

人づくりプラン(45事業)

町民の声

- 学力向上と調和の取れた人材育成
- 異業種間の青年交流会を活発化
- リーダーの養成機会の設置と支援
- 子どもたちへの愛郷心の醸成
- あいさつロードの復活
- 標津高等学校の魅力づくりと存置対策の強化
- ポー川史跡自然公園などの活用検討
- 文化ホールの利用率向上
- 既存の教育施設の利用率向上と活用検討 など

特色ある学校教育の実践 (10事業)

- ★川北幼稚園の2年教育の実施
- ★幼保連携施設の基本構想策定(標津市街地区)
- ☆Eラーニングの導入による自宅学習習慣の定着
- ◇保幼小中高連絡協議会の充実
- ◇ICT(情報通信技術)教育の充実
- ◇協定大学と連携した教育力のレベルアップ(小中学生学習支援など)
- ◇小中学校の適正配置
- ◇教育研究の振興と教職員の資質向上(教育スキルアップ研修など)
- ◇快適教育環境の整備(教職員住宅改修整備、学校施設等計画的な営繕、教材教具の充実)
- ◇学力向上に向けた特色ある学校教育の取組(ふるさと教育の実践、デジタル教材活用)

ふるさとを担うリーダーづくりとふるさにと誇りと愛着を持てる環境づくり (11事業)

- ★こどもサミットの開催
- ☆リーダー、コーディネート研修会の実施
- ◇青年・女性が活きる組織支援
- ◇子ども会の活動支援の継続実施
- ◇社会教育ボランティアなど人的資源の活用
- ◇ふるさと給食の実施(食育推進)
- ◇あいさつ運動の推進継続(春、秋のおはようあいさつ運動)
- ◇自然、産業、文化、歴史などふるさと学習機会の充実
- (くんべつ地曳網体験教室、華道こども教室、通学合宿時のふるさと学習など)
- ◇学校周辺の歩道除雪の拡充を試行
- ◇インターンシップの継続実施
- ◇標津きらり大学の継続実施

標津高等学校魅力化プロジェクト (9事業)

- ★人間形成向上研修の支援(修学旅行での歴史と文化を学ぶ本物体験など)
- ◇高校通学費補助
- ◇寄宿舎の運営・整備
- ◇進路指導対策強化
- ◇環境類型教育
- ◇部活動遠征費補助
- ◇中学生と高校生の交流事業(各教科出前講座など)
- ◇町民と高校生のふれあい事業の創出(高校生ボランティアの育成・支援など)
- ◇庁内プロジェクトチームによる応援体制の推進

知・徳・体のフィールドの有効活用と魅力化づくり (9事業)

- ★文化・芸術の鑑賞機会の充実(文化協会の活性化など)
- ★ポー川史跡自然公園の魅力化と利用促進(公園ガイド・体験学習インストラクターの養成など)
- ★防災行政無線を活用したラジオ体操の展開
- ☆ノーマライゼーションと健康づくりの推進
- ◇文化ホール有効活用促進
- ◇図書文化の推進向上(読み聞かせボランティアなど)
- ◇町民の元気づくり、夢づくり事業の継続(著名人等による講習会、講演会)
- ◇ふれあいスポーツデー、オホーツクマラソン大会等スポーツイベントの充実と地域コミュニティの推進
- ◇四季を通じたウォーキングの推進や海の公園を活用した軽スポーツの普及
- ◇トレーニング機器の充実と活用
- ◇スポーツチャレンジャーの継続
- ◇強化練習の里づくりとスポーツの振興(スポーツ合宿誘致など)
- ◇スポーツ指導者の養成と指導体制の整備(生涯スポーツ指導員制度の確立)
- ◇新しい「公共」を担う体育協会やスポーツクラブ等への支援
- ◇スポーツ事業を通じた町内の活性化(商工会、料飲店組合等との有機的連携)

知・徳・体の調和と愛郷心による
ふるさとと標津の未来を担う「人づくり」



ふるさと体験塾「芋掘り体験」



全道大会出場報告ロビーコンサート

① 活力と産業のあるまちづくり

当町が持続的に発展していくためには、
基幹産業である農林水産業の安定経営が不可欠である。
「生産のまち」として、地域資源を最大限活用し、国内外の競争に立ち向かう
自立した産業経営基盤をしっかりと創り出すことをめざします。

農業の振興

資源循環酪農の理念に基づき、家畜排せつ物などを活用した資源化や草地整備によって、草生環境の一層の充実による粗飼料自給率の向上を進めるとともに、きめ細やかな飼養管理や共同作業体系などの効率化経営、ヘルパー制度などのゆとり経営対策などとの連動によって、良質な牛乳生産体系の確立を図り、生産目標10万トンを目指した、「質と量」の経営実現をめざします。

町民の声

- 農産物を生かしたブランド品がもっとたくさんあっても良い。
- ふん尿の有効活用を。
- 毎日、標津の牛乳が飲めたら良いと思う。

林業の振興

森は、人々の生活や生産活動に欠くことのできない資源であり、グローバルな視点からもますます重要性が増しています。環境を守り育てる町として、その機能を守り、その恩恵を次の世代につなぐため、長期視点に立った森づくりを進めてまいります。

町民の声

- 町有林の整備。

水産業の振興

鮭生産量の復活に向け、資源の生育や生産環境の充実に一層取り組み、ホタテ生産量の増強に向けては、地場種苗体制などの体制整備を進めます。地域ハサップの推進とさらなる価値対策として「活〆事業」の確立を図るとともに、漁業と不利一体である水産加工業についても、高品質な原料資源を活用したさらなる「付加価値化」と販売力の強化で、強い食産業の確立に取り組みます。

町民の声

- 漁協、定置部会、町を含めた関係団体がサケの回帰率を高めてほしい。
- 水産物の未利用資源の酪農業などへの有効活用研究。

観光の振興

地域色が出た旅行商品の開発と、知床圏の優れた自然景観などの地の利や、これらと共存した「元気ある水産業・酪農業」と連携したエコ・ツーリズム事業による「目的型の観光地」を確立させるとともに、水・キラリの祭りやアキアジ祭りなどの産業イベントなどの賑わい強化と、観光ガイドや宿泊、郷土食の創作充実、サーモンパークの再生検討により、観光の経済化を進めます。

町民の声

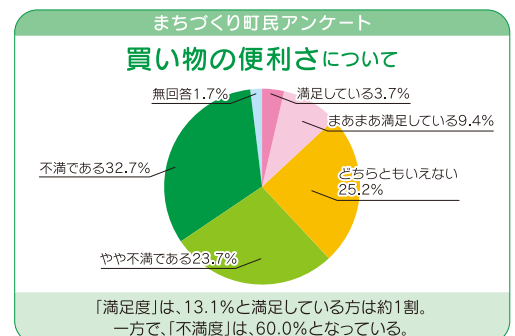
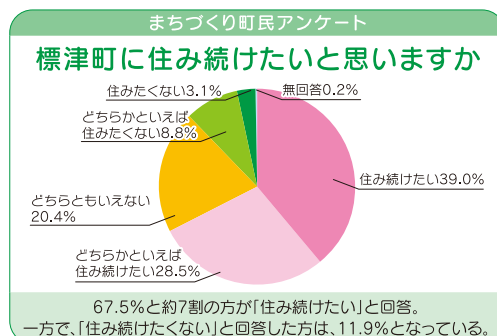
- 知られざる標津町の魅力を知ってもらおう。
- 「海の公園」からまちおこしをして行くべき。
- サーモンパークを他町からも遊びに来る施設に。

商業の振興

アンケート等において、多くの町民から、町内で買い物ができる環境整備が求められました。町民の支持が広がっている移動販売車事業を中心として、消費者との結びつきや信頼など、商いの原点に立ち帰って、集積店舗やお年寄りの買い物課題など、町民が求める買い物環境の充実にむけた検討を行いながら、愛町購買運動を広げるための、商業活動の促進に取り組んでまいります。

町民の声

- 買い物に対しては、不便が多すぎるので、何とかならないものか。
- 高齢者でも歩いて行ける場所に買い物できる場所が欲しい。



② 環境と暮らし対策・おもいやりのあるまちづくり

「見守り」、「支えあい」、「応援」をキーワードに子どもからお年寄り、障がい者などすべての町民が、安心・安全で暮らせるまちづくりをめざすとともに、環境にやさしいまちづくりと地の利を活かして人と自然がともに生きる環境づくりをめざします。

自然環境対策

海・山・川・大平原の豊かさは、生産活動はもとより、この町に暮らす町民の生活を守り・支えるきわめて重要な財産です。

このため、「産業環境に関する三者会議」や町民ボランティア組織、町内会など様々な立場の連携・協力のもとで環境保全の取組みを進めてまいります。

町民の声

- 自然を多く残し、それを保護してほしい。
- 環境保全なくして基幹産業の振興は成り立たない。

ゴミ処理・資源リサイクルの推進

環境と経済が両立した循環型社会を形成するため、国が提唱している「ゴミの減量」「再使用」「再生利用」の3R政策を町も積極的に進めて、町民一人ひとりのごみ減量化、資源化に取り組みます。

町民の声

- ゴミの分別をわかりやすくしてほしい。
- ゴミの収集日が祝日に当たる場合の代替日の検討を。

子育て支援の充実

子育てが楽しいと実感できる環境づくりが必要です。このため、子育て奮闘中の母親同士の交流や悩み事相談などの場の充実、子供の遊び場整備や一時預かりの充実など、各種の子育て支援を強化して、子育てしやすい環境整備に努めます。さらに、保育園や幼稚園事業の充実と幼保連携の検討を進めます。

町民の声

- 子育てしやすい環境を。
- 子どもが病気の時、仕事を休まなければならない、預ける場所があればと思う。

障がい者支援施策の充実

共同作業所「キラリ工房」のNPO法人化を進め、経営安定化を図り、障がい者の就労の場の確保と、自立した生活安定に向け、障がい者のニーズに応じた各種サービスの充実を検討して、将来もこの町で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

町民の声

- 障がい者の就労の場と町民理解の醸成。
- 障がい児の早期発見のための支援・相談体制づくり。

高齢者施策の充実

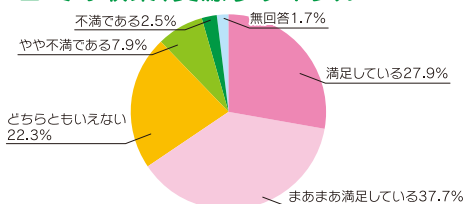
高齢者が安心して住みなれた地で生活するには、①近所づきあいの関係を作り上げる、②できる限り自立した生活ができるようにする、③介護や見守りが必要になったときは、家族・地域・行政が支える仕組みを確立することが必要である。そのため、元気な高齢者が虚弱な高齢者を支える仕組みや活発に活動の場を広げ、地域に還元できる仕組みづくりをめざします。

町民の声

- 高齢者施設なども新しい産業になりえる。
- 60代から70代を中心とするシニア世代の豊富な知識と経験を生かし、地域に還元できる体制づくり。

まちづくり町民アンケート

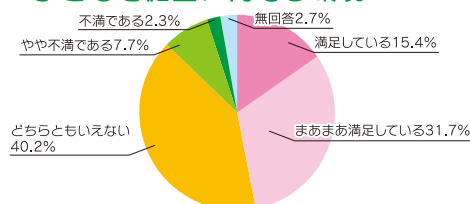
ゴミの収集、資源リサイクルについて



「満足度」は、65.6%と約6割の方が満足していると回答。一方で、「不満度」は、10.4%となっている。

まちづくり町民アンケート

子どもを健全に育てる環境について



「満足度」は、47.1%と約5割の方が満足していると回答。一方で、「不満度」は、10.0%となっている。

豊かな教育の推進による ふるさと標津の未来を担う「人づくり」

③ 人と文化が育つまちづくり

人間力醸成のため「ふるさと標津を学びのフィールド」に据え、学校教育・社会教育(文化)・社会体育が相互に連携しながら、「ふるさとに学び、ふるさとを創り、ふるさとに生きる人づくり」をめざします。

社会教育の推進

平成22年4月から「標津きらり大学」を開校し、町民の各種講座等への参加意欲の向上や事業の理解と充実を図っている。今後も「ふるさと標津」を学びのフィールドとしたふるさと体験・ふるさと学習を推進します。

学校教育の推進

町独自の学力調査(CRT)や相互協力協定大学の教育力を活用したサポート教室の開講等、具体的な実践活動を展開することにより児童生徒の学力向上(知・徳・体)や各種問題行動への対応等により地域関係機関と連携した適性就学を推進します。

また、道立標津高等学校の魅力ある学校づくりを促進するための具体的な支援策を検証し、高校の存続を図ります。

青少年の健全育成

地域におけるリーダー、指導的担い手の人材発掘活用が課題であり、まちの将来を担う青年同士の異業種間交流事業を実施し、まちづくりのリーダーとなる人材育成にも力を入れていくことが求められているため、「ふるさと標津への愛郷心の醸成と未来を担う人づくり」を目標に取り組みます。

地域文化の振興

子どもの頃から、芸術・文化に親しむことにより、大人になって文化的で豊かな人生を送るために、伝統文化・芸能・芸術体験鑑賞の充実と知・徳・体の健全なバランスが取られた成長を促す機会を提供するため、「伝統文化子ども教室」や「子どもの優れた舞台芸術体験事業」など実施します。

また、ポー川史跡自然公園の活用について、文化財の内容を分かり易く、魅力を伝えられるようその伝達方法を工夫していきます。

スポーツの振興

スポーツを通じて、住民参加と主体性の伸張による地域の元気づくり、豊かなコミュニティづくりに資する総合型地域スポーツクラブの積極的な支援を行い、男女、年齢を問わず誰もが気軽にスポーツに親しめる体制づくりを進めます。

町民の声

- 若年層の活動を促し、町の活性化を図る。
- 子どもが活力と夢を持って活動できるまちづくり

町民の声

- 生徒の人数が少ないので、部活動も思うように出来ないことがある。
- 標津高校はぜひ残してほしい。
- 標津高校から進学するチャンスを広げてほしい

町民の声

- リーダー養成の機会設置と支援
- 青年層における異業種間交流の実施

町民の声

- 文化活動を楽しめる施設が少ない。
- 文化ホールの利用率をもっと高める方策を検討。
- ポー川史跡自然公園のもっと生かした活用の検討。

町民の声

- スポーツ関係の設備を充実してほしい。
- 既存施設を活用した全天候型多目的施設の検討
- 全町全域でラジオ体操。

平成22年5月7日釧路新聞
釧路児童
アンケート
「わたしのふるさと」
より

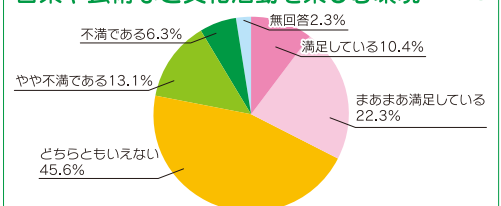
※小学5年生を対象にしたアンケート

※「好き」が9割を超えたのは、標津町と鶴居村のみ

	好き	嫌い	どちらでもない
釧路市	72.41	6.90	20.69
釧路町	74.29	4.76	20.95
厚岸町	71.05	2.63	26.32
浜中町	89.19	2.70	8.11
標茶町	71.70	9.43	18.87
弟子屈町	70.18	7.02	22.81
鶴居村	93.55	0.00	6.45
白糠町	63.95	2.33	33.72
小計	73.26	4.81	21.93
標津市	63.33	11.67	25.00
別海町	84.38	1.56	14.06
中標津町	76.47	4.71	18.82
標津町	93.88	6.12	0.00
鶴居村	81.08	5.41	13.51
小計	78.98	5.76	15.25
合計	75.23	5.14	19.63

まちづくり町民アンケート

音楽や芸術など文化活動を楽しむ環境について



「満足度」は、32.7%と約3割の方が満足していると回答。一方で、「不満度」は、19.4%となっている。

すべての町民が等しく 快適な暮らしができる生活環境の創出

④ 快適で住みよいまちづくり

快適な住環境や暮らしに欠かせない水道・下水道の整備、交通の利便性向上、さらには、地震、津波などの災害に強い安全で安心なまちづくりを推進し、誰もが住んでみたいと思う魅力あふれる定住地づくりをめざします。

まちなみや景観対策

平成19年10月にNPO法人「日本で最も美しい村」連合の加盟を機に行政と町民・町内会等と協働による環境整備活動など彩りのあるまちづくり推進活動の実践と機運が高まってきており、町民の参加性を助長しながら郷土を愛する心と、共に汗する協働の発揮により、美しいまちちなみ景観の整備を進めます。

町民の声

- 道路沿いに花がある車で走っていても心が和む。
- 使っていない建物等を撤去し、整備して環境に気を使うべき。

道路・交通網の整備

冬期間の住民生活の利便性の向上や通勤・通学の安全確保、産業の振興のため、除雪体制を強化・整備するほか学校周辺などの歩道の除雪により歩行者の安全な通行を確保します。

町民の声

- 除雪をもっと早くしてほしい。
- 歩道の除雪がなっていない。

水道・下水道の整備

近年多発傾向にある局所的な豪雨による水源汚濁や地震災害などにも的確に対応し、安全・安心な水道水の安定供給を強化するとともに、下水道については、懸案の未整備集落対策として、浄化槽事業に取り組み、全町民が等しく快適な暮らしのできる生活環境の創出を図ります。

町民の声

- 飲料水は大変おいしい。
- 下水道の施設がないため不便。
- 浄化槽装置の自己負担が大きい。

防災対策の推進

有事の際には即応できるよう、避難方法の確認、非常持ち出しの準備、防災訓練への参加など、町民の災害への備えに対する意識の強化を図るとともに、迅速かつ的確な災害情報の伝達により地域の安全安心の確保を推進するため、防災行政無線のデジタル化と潮位計・監視カメラの設置等を行います。さらに、災害本部、避難施設の機能強化に取り組みます。

町民の声

- 防災行政無線が入らない、聞き取りにくい。
- 防災対策を行政・町内会との連携でより具体化してほしい。

公共交通の維持・確保

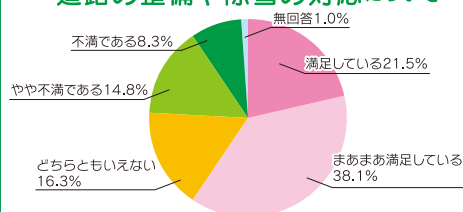
高齢者を中心とした交通弱者の足として、路線バスや町内循環バス及びハイヤーは、病院や公共施設、通学などへの移動手段として、地域交通に必要不可欠なものとなっています。このため、町民の足を持続的に確保し、より利便性を高めるために「標準型デマンド交通」の確立など公共的交通機関の確保に努めます。

町民の声

- バスの本数を増やしてほしい。
- 交通の便が悪い。1人でも多くのバスを利用した方が良いと思う。

まちづくり町民アンケート

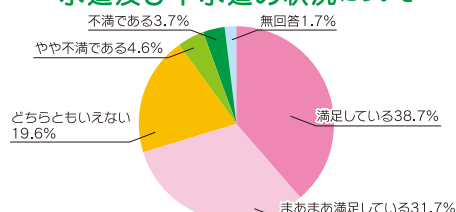
道路の整備や除雪の対応について



「満足度」は、59.6%と約6割の方が満足していると回答。一方で、「不満度」は、23.1%となっている。

まちづくり町民アンケート

水道及び下水道の状況について



「満足度」は、70.5%と7割を越す方が満足しており、特に4割の方が「満足している」と回答。一方で、「不満度」は、8.4%となっている。

⑤ 町民と協働のまちづくり

地域で支えあう気持ちを育みながら、お互いの知恵を出し合い、地域の課題・危機感をともに解決していけるよう、「町民力」と「地域力」、「行政力」の信頼のトライアングルにより、協働のまちづくりをめざします。

住民参画のまちづくり

地域活性化等の行事、事業における積極的な情報の公開や事業実践者との交流の場の確保を図ることにより、町民全体の情報共有を促進し、それぞれが何らかの形で参加し、楽しみ感動できるしくみを構築していきます。

町全体の高齢化が進む中、各町内会の主要な実践者も年々減少の傾向にあります。地域の諸問題解決のためには、行政頼みではない町民同士の助け合い、支えあい在今后益々必要とされます。自らが考え、行動する自治組織づくりをめざします。

北方領土対策の推進

元島民や後継者のみならず町民自らこの問題を重要なものであることを再認識し、町民一丸となって取り組みを再構築する必要があります。町民を対象とした北方領土講座(学習)等を関係団体、体験ガイドとも連携する中で実施し、北方領土返還運動を強力に推進します。

行財政改革の推進

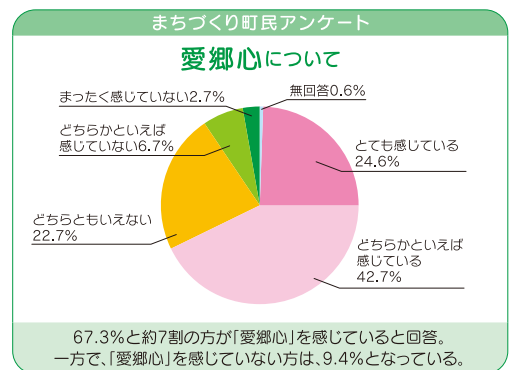
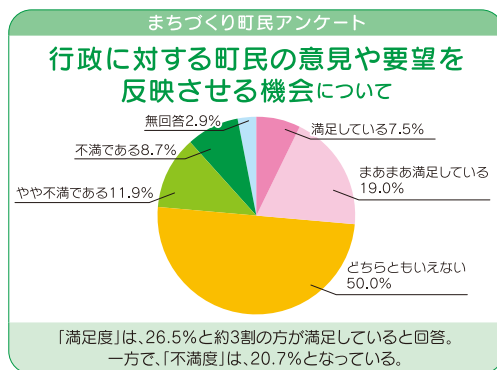
目に見える開かれた町政が不可欠であり、現行の地域担当派遣参事制度やまちづくり出前講座などの活用による情報提供や意見交換の場の確保により、地域住民のコンセンサス(合意形成)を経た中で、身の丈にあったふさわしい行政運営を推進していきます。(財政指標: 広報しべつ4月号参照)

町民の声

- 住民が主体となったまちづくりの推進。
- 町民全体への情報共有を促進。
- 地域参加できる環境づくり。

町民の声

- 税金を有効に活用してほしい。
- 町財政が心配だ。とにかくまちと町民が一体となり、町運営していくこと。
- 役場職員の態度をどうにかしてほしい。



「自分たちのまちに誇りと自信を！」

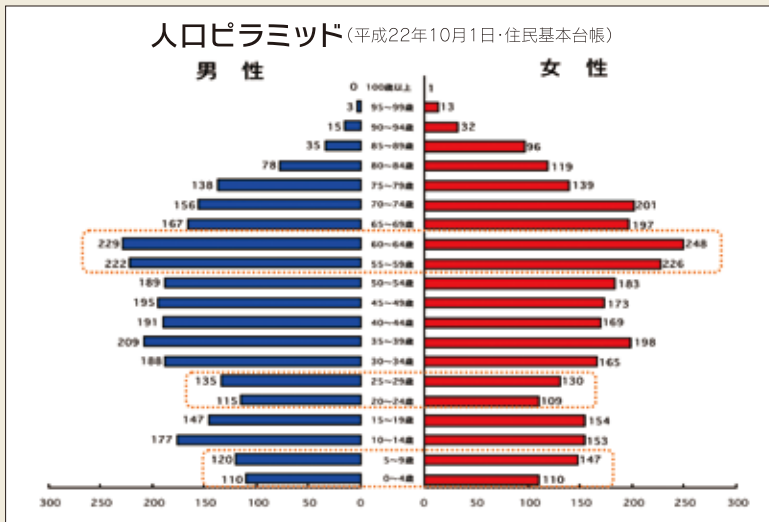
自分の中に標津町の自慢できるところをもっと持ってほしい。自信を持って、「こんな良いところがある」と、見つけて町をほめてほしい。そして、相手に喜んでもらう。人が喜んでくれることに自分に関われる、喜んでくれることで幸せに変わる。これは私の一番の思い。「もっと自分たちの町に誇りと自信を持つべき。」

標津町で夢の種を蒔いていく。種を蒔かなければ芽は出ない。そして、育てていってほしい。大きなことではなく、自分ができることを一人ひとりがコツコツとやっていくこと。それが1人、2人、10人、100人と全町民に輪となって広がっていくはずである。

※平成22年6月23日に開催された「まちづくりシンポジウム」の横石氏(徳島県上勝町・働いるどり代表取締役)の基調講演より抜粋



人口指標

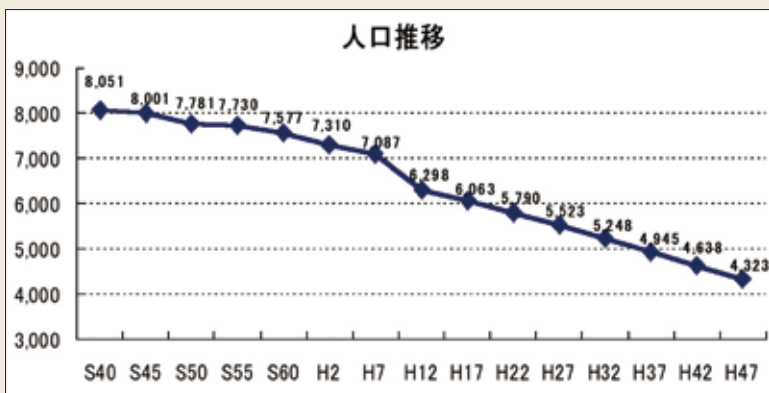


【人口の動向】

人口ピラミッドで見ると、20代が少なく、景気の低迷により、地元での雇用の場が確保されないため、転出せざるを得ない若者の流出が顕著になっています。

また、近年の少子化を象徴するように10歳未満も少ない。

現在、高齢化率は、24.0% (平成22年10月1日現在) でありますが、団塊の世代の人口割合が多いだけに、今後の少子高齢化の進展が懸念されています。



【人口の推移】

当町は、平成19年4月1日に危惧していた6,000人 (住民基本台帳) を下回り、以後、6千人台に回復することなく、減少傾向はなおも続いていきます。

人口推計によると15年後の平成37年には、4,945人と5,000人を割り込み、25年後の平成47年には、4,323人まで減少すると推測されています。

出典：国立社会保障・人口問題研究所【市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)】
 ※S40～H17年は国勢調査人口。H22年以降は人口問題研究所の推計人口。

人口目標は…

※平成27年度は、推計人口 (最小二乗法5,465人) を勘案し、

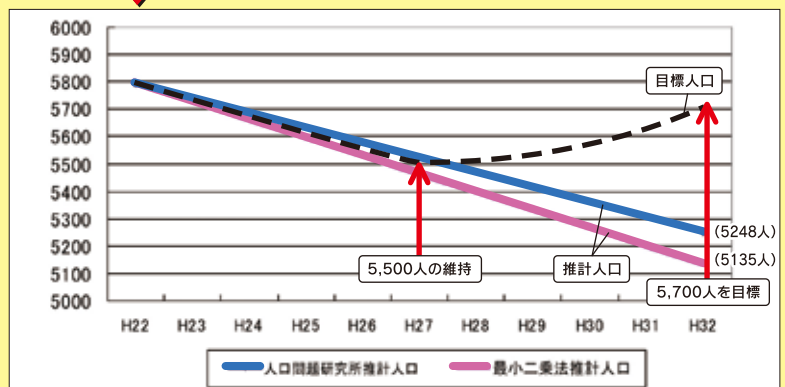
5,500人の維持

を目指します。

※さらに、平成32年度までに

5,700人の復活

を目指します。



「まちづくりシンポジウム」でコーディネーターを務めていただきました

ふるさと応援町民 国井 雅比古氏 (NHKアナウンサー) からの応援メッセージ

「自分たちが出来ることから取り組むこと」

標津町とかかわって十数年が経ちますが、私は、自然が豊かで、人のぬくもりのあるこの町が好きです。この自然の雄大さ・素晴らしさを本州の人たちにもっと伝えたいし、自分の子どもや孫たちにも本当にあじあわせてみたいと思っています。

仕事柄、全国各地を回る機会がありますが、私は必ず標津町の事例を紹介します。祭りでは水をテーマに、漁業、農業などすべてが水の恵みによって培われているという視点で行っており、観光では町民がガイド役で活動しているエコ・ツーリズム事業に取り組み、多くの人々に感動を与えているなど実に素晴らしい事例だと思います。

まちづくりは、まずは自分たちが出来ることから少しずつ取り組んでいくことが大事であり、私も標津町の応援団の一人として、少しでも町のお役に立ちたいと思っています。

町民の皆様へ

今回、ふるさと新生プラン・ステップⅡの策定に当たり、平成22年1月の地域活力推進町民会議を皮切りに、平成23年2月の成案化までに約1年間を費やしてきました。

この間、29回の会合やまちづくり町民アンケートなど延べ1,324人の参加をいただき、延べ945件にわたる貴重なご提言、ご意見をいただきました。

そのいただいたご意見を土台として、平成23年度から平成27年度までの5年間の短期的・集中的に実施する施策として、153の事業にとりまとめ、町民の皆様との協働により果敢にチャレンジしていこうとしているものであります。

この計画が、町民力、地域力、行政力の信頼のトライアングルにより、より実効性のある計画となるよう、今後とも町民の皆様をはじめ、関係各位の力強い実践とご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びとして、計画の策定にあたり、地域活力推進拡大町民会議、町議会、まちづくりアンケート、まちづくりシンポジウムなどに参画いただき、さらには、貴重なご意見・ご提案をいただきました多くの町民の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

標津町長 金澤 瑛

標津町ふるさと新生プラン「ステップⅡ」

ダイジェスト版／平成23年4月

発行／北海道標津町

北海道標津郡標津町北2条西1丁目1-3

電話(0153)82-2131 FAX(0153)82-3011

URL <http://www.shibetsutown.jp>

編集／標津町役場企画政策課

Mail kikaku@shibetsutown.jp